ふくしま農業女子ネットワーク
農女びより
▼12▲

百笑一姫♡Fukuがぁる ネットワークのロゴマーク

おいしいミニトマト作りに精を出す武藤さん。円内は武藤さんの作ったドライトマトが大好きな、長男の雷河（らいが）君

▶ふくしま農業女子ネットワーク（愛称：百笑一姫♡Fukuがぁる）　「Fukuがぁるのアグリガーデン in Aizu」は30日午前9時から午後2時まで、湯川村の道の駅あいづ湯川・会津坂下で開かれます。メンバー自慢の農産物や加工品を販売するマルシェや、ハーブティー教室、チョコベジ試食など多彩に繰り広げます。

問い合わせは事務局　県農業担い手課　電話024(521)7340へ。

子育てと両立 奮闘中

武藤（むとう） 藍（あい）さん（会津若松市）

会津で子どもを育てたい。夫の母と祖母が女手2人だけで守っていた田畑の仕事を、できるだけ早く覚えたい―。東京から会津若松市北会津町へ、夫と長男と共に引っ越してきたのが、6年前。野菜を育てることは未経験、ましてや花をすぐ枯らすような私でしたが、家族の指導のもと農作業を手伝い始めました。

代々受け継いできた農地で、ミニトマト約22アール、水稲約3ヘクタール、スナップエンドウ、雪下ニンジンなどを作っています。今では草刈り機と軽トラックを使えるようになり、ミニトマトの管理や選別もスムーズにできるようになりました。

とはいえ、わが家には0歳から7歳までの子どもが5人います。まだ甘え盛りの子どもを抱えての農作業。想像していた「広々とした自然の中で子どもたちがのびのびと育つ、穏やかな子育て」には程遠く…。自宅で英会話教室も開いているので、分刻みで動き回りながら、仕事と子育てを両立すべく奮闘中です。

やりがいがある一つが、ドライトマト作りです。販売用にパック詰めした残りを、子どもたちが「おいしいおいしい」と取り合いをしてくれます。ブログを見た方や友人などから、毎年たくさん注文をいただいています。野菜嫌いでミニトマトが食べられない子どもでも、おいしいと言ってパクパク食べるという、うれしいお声もいただきます。

今でこそ「農業女子」というネットワークのおかげで農業友達ができましたが、孤独を感じることもしばしば。でも、自分の作ったものをすごく喜んでくれる人がいることは、農業の何よりの楽しみ、やりがいだと実感します。子どもたちの、「ママ、ドライトマト作ってー！」の声は何よりの声援。農業も、子育ても、どっちも楽しんでいきたいです。

◆プロフィル◆　山梨県大月市出身。2011（平成23年）年3月、夫の実家の会津若松市北会津町へ移り、農業を開始。ミニトマトやカラフルニンジン、スナップエンドウ、落花生などを栽培し、直売所やネットで販売、旅館やレストランにも出荷している。2男3女、5人の子育て中。